

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月8日

【評価実施概要】

事業所番号	3473500688
法人名	有限会社 トリオ
事業所名	グループホーム きららの里
所在地 (電話番号)	広島県山県郡北広島町本地1931 (電 話) 0826-72-7324

評価機関名	広島県社会福祉協議会		
所在地	広島市南区比治山本町12-2 広島県社会福祉会館内		
訪問調査日	平成21年12月4日	評価確定日	平成22年2月16日

【情報提供票より】(H21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	1名	要介護2	1名			
要介護3	2名	要介護4	3名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	89.9歳	最低	75歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北広島病院, 千代田中央病院, 江川医院, 有田歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム きららの里(以下「ホーム」)の周辺には田園が広がり、豊かな自然の中に位置しています。平屋造りの建物にはデイサービス、居宅支援事業所が併設され、事業所間の連携を図りながら一体的な運営に取り組まれています。利用者は、身体機能や体力の低下により、以前に比べて地域行事への参加、日常の外出も難しくなっていますが、一人ひとりの「その人らしい暮らし」をいつも職員全体で考え、支援に取り組まれています。また、災害対策は、一人暮らし・高齢世帯の多いこの地域全体の課題であり、地域の人たちの関心も高くなっています。ホームも地域の一員として話し合いや合同避難訓練に積極的に参加されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、同業者との交流について、特に職員間の交流が期待されていました。その後近隣のグループホーム職員の見学訪問が行われるなど、相互交流が実現されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施にあたっては、職員が二人一組となって取り組んだものをまとめ、ホームの自己評価としておられます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2か月ごとに開催され、ホームの近況報告、参加者からの情報収集など、ホームと地域をつなぐ話し合いの場となっています。また、新型インフルエンザや地域防災などの勉強会も実施されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回、「家族会」が開かれるほか、運営推進会議で出された家族の意見が運営に反映されるよう努めておられます。面会簿には一枚ずつ「気づき欄」を設け、できるだけ家族の意見を聴きとるよう努めておられます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	身体機能の低下により、地域行事への参加やふだんの外出が少しずつ難しくなった利用者は、併設のデイサービスとの行き来により、昔ながらの近所付き合いを継続される人もいます。近所の農家から野菜のおすそ分け、子どもたちが遊びに立ち寄るなどの交流機会があります。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関の正面には、「運営理念」と並んで「社是」「五つの誓い」「介護重点目標」が掲げられ、ホーム運営への力強いメッセージを伝えておられます。また、全職員での話し合いによって開設時の理念を見直され、チームケア実践を目標とした理念を作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、「運営理念」「社是」等の全文を夜勤・日勤の全職員で唱和されています。唱和しながら自らを振り返り、反省することもしばしばあると話される職員もおられました。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立時より、積極的に地域行事に参加されています。最近、利用者の状況変化により、行事案内を受けても参加しにくくなっています。併設のデイサービスの利用者が、ホームの利用者を訪ねて来られたり、ホームからも出向いたり、昔ながらのご近所付き合いを継続している人もいます。地域行事への参加や保育園児との交流の様子がスナップ写真に撮られ、リビングのボードに賑やかに飾られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施にあたっては、それぞれ職員二人一組で取り組んだものをまとめ、ホームの自己評価結果とされています。改善点等は運営推進協議会で報告され、評価結果を活かした取り組みを進められています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの開催が定着しており、毎回家族・地域・行政職員の参加があります。ホームの近況報告、参加者からの情報収集などホームと地域、行政をつなぐ大切な話し合いの場とされています。最近の会議では、新型コロナウイルスや地域防災についての勉強会なども実施されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、町主催の「地域ケア会議」が町内各地区で開かれており、ホームから運営者、管理者が出席されています。地域包括支援センターの職員とは、身近な問題や専門的な相談などを通じて連携が図られています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者は、家族と職員を頼りにしているとの思いから、常日頃から家族との連携を密にする姿勢を持たれています。毎月、家族向けに「きらら便り」を作成され、家族のもとへ送られています。希望に応じて、利用者の兄妹にも送付し、好評を得ています。また、通院時にはできるだけ家族に同行をお願いして、利用者の病状の把握をしてもらうことに努めておられます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、利用者と家族同士の交流を兼ねて「家族会」が開かれています。2か月ごとに開かれる運営推進会議では、出された家族の意見が運営に反映するよう努めておられます。また、面会用紙には「気づき欄」が設けられ、日頃の思いを書く家族もおられます。匿名希望者には「意見箱」を設けることで、いろいろな方法で家族からの意見が届くよう配慮されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職などに伴う新しい職員の採用にあたっては、ホームの運営方針に叶う人材を求めておられます。一人ひとりの職員の利用者にも与える影響が大きいことを自覚され、ケアチームの一員に適した人材の採用が行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週で開かれている「グループホーム会議」が運営者と職員の話し合い、情報共有、学習の場として位置づけられています。外部研修への参加についても職員への配慮があります。		研修に参加した職員による報告会などをさらに充実することで、ケアワーカーとしてのレベルアップが図られるよう期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム職員が抱える悩み、課題の解決に向けての一つに、同業者からの情報、アドバイスが不可欠と認識され、機会を捉えて積極的に交流に取り組む姿勢を持たれています。先日、近隣のグループホーム職員の見学訪問を受け、今後はホームからの訪問交流が計画されています。		同業者のネットワークを通じて、ホームにとって必要な情報など得るとともに、相互交流を通して質の向上に取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設事業所のケアマネジャーと連携を図りながら、本人にとってその時に一番必要なサービスが受けられるよう検討し、利用につながられています。併設のデイサービスの利用を経て入居する場合もありますが、入居に至るプロセスはさまざまであり、納得してからの利用が重要視されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	体調や気持の変化に合わせて、その日の過ごし方を一人ひとり支援されています。ホームの暮らしのなかで「できること、できそうなこと」には参加してもらい、調理方法などについては職員が学ぶ場面も多くあります。訪問日には、職員と協働で来年の干支づくりが進められていました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活習慣や関心のあること、気がかりなことを、折にふれて把握することで、本人のペースをつかみ、一人ひとりに応じた関わりができるよう努めておられます。「何でもノート」によって職員間で情報が共有され、本人本位のケアが実践されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望、意向を尊重した介護計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、一人ひとりについてのモニタリングが行われ、3か月おきの見直しにつながられています。日々の健康状態、生活の様子の記録や、「何でもノート」、さらに家族の意向をふまえて一人ひとりのケアのあり方が検討されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の事業所とは常に連携を図り、ホームの入居待機者との関わりが継続できるよう、一体的な支援が行われています。毎週木曜日に開かれる「きらら会」では、地域の高齢者が一日を過ごす場を提供されています。ホームの利用者との交流もあり、楽しい時間となっています。また、「こども110番」にも協力されており、子どもたちが遊びに立ち寄ることもあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院困難な利用者には、かかりつけ医の往診が月1回から2回に増やされ安心感を得られています。また、通院に際してはできるだけ家族に同行をお願いし、医師の説明を直接聞き、本人の状態を把握してもらうよう働きかけられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」については、未だホームでの経験がありません。家族・医療機関との連携が不可欠であるため、ホームだけでは限界があることを認識されています。今後家族とよく話し合い、できるだけ希望に添える対応をするとの方針を持っておられます。また、介護度の高い利用者も多く、日々の介護にも技術と工夫が必要となるため、ベテランの職員から介助技術を学ぶなど自主的な講習会を実施し、重度化されたときの介護について学ぶ機会を作られています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、親しみを込めて、利用者を「お父さん」「お母さん」と呼んでいます。個人情報にあたる記録書類等は、カーテンで目隠しされた棚に収められ、手に取って見られないよう工夫されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日常の業務だけではなく、利用者の気持ちに絶えず寄り添い、役割を終えた後の満足感、楽しいおしゃべりからこぼれる笑みを大切にされています。散歩帰りにホームの畑に立ち寄り、食べ頃の野菜をポケットに詰め込んで持ち帰る利用者もおられます。それらの野菜は新鮮な内に調理され、食卓に上るなど他の利用者にも喜ばれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣農家から野菜などのおすそ分けも多く、ホームの庭で育てた野菜とともに調理され、喜ばれています。食事づくりの負担を軽くするため、買出しは宅配に切り替えられました。しかし、「できることをする」という方針通り、皮むきや下ごしらえなどは利用者が担当しています。一人ひとりの咀嚼、飲み込みに合わせた食事の形状、食器が動かないよう滑り止めランチョンマットなど、できるだけ自分の力で食べられるような工夫が見られました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があればいつでも入浴できますが、ほぼ一日おきの入浴を支援されています。見守りや介助浴など一人ひとりに合った支援が行われています。利用者の入浴のパターンを把握され、促しの声かけをされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができそうなことには、タイミングよく声かけをし、達成感を味わってもらうなど、笑顔につながる働きかけが行われています。回想法によりおしゃべりを楽しんだり、併設のデイサービスとの合同行事に参加することも、楽しみの一つとなっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態変化により、以前に比べ、外出の機会が少なくなりました。ホームの敷地内や周辺を散歩するなど、気候や一人ひとりの体調に配慮した外出を心がけておられます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や部屋の鍵はかけられていません。農繁期になると元気で農業していた頃を思い出し、外に出る利用者もいますが、近所の人から連絡があるなど、地域の理解も得られています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策は、一人暮らし・高齢世帯の多いこの地域全体の課題でもあるため、話し合いや合同訓練などを通じて、日ごろから対策が講じられています。ホーム運営者が地域代表という利点もあり、地域全体で防災に取り組む方針ができています。さらに、建物火災についても不安があるため、自主的に避難訓練の回数を増やすことも検討するなど、災害に備えておられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期健診、体重測定などにより栄養状態の確認を行い、食事を摂取しやすいように工夫されています。体力の低下がみられる利用者にはサプリメントなどが利用されています。水分補給にも努められ、水分制限のある利用者には、医師からの指示量が実行できるよう支援されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには畳の間があり、天井も高めにとられているため、ゆったりした佇まいとなっています。すぐ外側にはウッドデッキが設置され、そこからは手入れの行き届いた庭園、鯉の泳ぐ池が見えます。さらにその先には田園が広がり、抜群の眺望です。食後は自室に戻らず、ソファや畳の間でくつろぎながら一眠りする利用者もおられました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら部屋づくりを行われています。各部屋にはサイドバー付きのベッドが備えつけられています。畳に布団を敷いて寝られる人もおり、その人に適した生活スタイルを選ばれています。鉢植えの花を育てたり、家族の写真や自分で制作した作品を壁に飾るなど、利用者一人ひとりが安心して過ごせるような部屋づくりを行われています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム きららの里

評価年月日 21 年 11月 2 日

記入年月日 21 年 11 月 9 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 中倉 雅子

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	7		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員一人ひとりの意見を取り入れた理念を作り、事務所、玄関に「経営理念」「社是」「介護目標」「五つの誓い」を訪問者、職員が見えやすいように掲示しています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時に職員が唱和し、一日のスタートを切っており、業務に活かせるよう心がけています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	外部評価、運営推進会議での内容を玄関に置き、皆さんに公開しています。また、月4回高齢者の方に施設を利用していただき、事業所の役割などを話し、理解を得るようにしています。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合い、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	こども110番の場所として提供し、子供達や近所の方達を行事に招待し、コミュニケーションを図っています。周辺の草刈や、町内美化運動にも参加しています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏祭、とんど、運動会、保育園の発表会など地域の行事に参加しています。保育園児や小学校など来ていただき交流を図っています。事業所の行事に参加を呼びかけています。		今年は天候の状態や、新型インフルエンザの流行入居者の体調の低下で出かけることが少なく、来ていただくことが多くなりました。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	「きらら会」を発足し、毎週木曜日に高齢者に地域ごとに来ていただき、レクレーションをしながら楽しんでいただいています。 中学生の職場体験学習事業所として利用していただいています。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果を家族、運営推進委員、行政に報告し改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、事業所の状況、入居者の状況などを報告し、提案、意見などを頂き、業務に活かしています。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所の現状を報告し、町の現状、方針などの情報交換を行っています。また、事業所で抱え込めないと判断したときは地域包括センターと相談し解決しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修などで得た知識の勉強会などを行い、個々については必要時に話し合いの場を設けています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者の尊厳と主体性を尊重し職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、意識をもって虐待しないケアの実施に努めています。	○	言葉による虐待など普段慣れした言葉も、いま一度考えるよう振り返りを行い、実践していきます。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結び解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者、家族と面談し、ホーム内を見学していただき、契約内容をきちんと説明し、同意を得ています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の家族会を設け意見交換を行い、また、運営推進会議に出席して頂き外部者と意見や協議を行い運営に反映しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「きららだより」を毎月発行しています。 毎月預かり金の状況報告。 個々の様子を写真と手紙によりお知らせをしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不平、不満、苦情の受付は施設長が兼任し、業務に反映させています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2週間ごと月曜日にミーティングを行い、職員の意見や提案を話し合っています。 月1回全体合同ミーティングを行っています。		職員個々の思い、取り組む姿勢を大切にしています。必要に応じヒヤリングや管理者会議を行っています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	毎月職員の希望を聞きローテーションを組み、状況の変化があれば管理者とパートタイマーで対応しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職者以外は出来るだけ最小限にしています。職員の採用についてはホームの理念に共感する人材の確保に努めています。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設長が研修の内容を吟味し、各職員が研修に参加できるよう計画しています。		職員1人ひとりの課題に合った研修を振り分けながら、研修に派遣しています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者と交流、地域ケア会議に出席し各事業所との意見交換をしています。	○	他事業所の職員とのネットワークを作っ て行きたいと思います。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員とのコミュニケーションを取るため、食事会を開催しています。 「何でもノート」を利用し職員間でのコミュニケーションを図っています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	時々現場に入り、職員の様子や入居者を観察されています。各ミーティングに参加され意見交換をされています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人に会い、困っている事、不安に思っている事などを聞き、本人にとって今何が必要な支援のかを見極め、確認しながら対応に努力をしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が困っている事、不安に思っておられる内容を良く聴き、今までのご苦勞を受け止め、今後の対応について、家族とのコミュニケーションを取っています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	併設している、居宅支援事業、デイサービス職員と共に本人や家族の相談内容を見極め、医療機関を含めた提案をしています。		居宅やデイサービスの担当者と検討を行い希望に近いサービスの提供を行っています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームの見学や体験入居をしていただき、既存入居者との交流を通し、様子を見させていただき、本人と家族が納得されるよう努めています。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び、支えあう関係を築いている	工作や手芸、畑作業など自分で出来ることをしていただき、出来ない部分は職員が陰ながら支え、入居者に達成感を味わってもらい、共に喜べる環境づくりをしています。		野菜の苗植え、調理など一緒に行い、教えていただくことも多々あります。 収穫した野菜などを食卓に並べると、とても喜ばれます。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の様子をこまめに報告し、家族さんに訪問していただいたり、電話で相談したりして共に支えあう雰囲気を作っています。		通院にご一緒して身体状況の把握をしていただき、また、食事に付き添っていただくなどしています。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人の希望や家族の意見を総合判断しながら、公平な立場でより良い関係を築くよう努力しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の思い出を大切にし、昔なじみの神社、墓参りなどに行き、友人や地域の方と交流が取れるよう支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知の程度の差がありますが、自然とお互いが助け合ったり、思いやったりする場面が見られます。プライベートは除き、助け合いが行えるよう職員間で調整し、支援しています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の施設へ移転された方には訪問しています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が興味を持っている事柄、行動に合わせ話題や作業の提供をしています。本人の希望を聞きながら対応しています。	○	家族さんより詳しい情報収集を行いたいと考えています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生活歴、生活環境の把握に努め、日々の記録や行動から生活リズムを崩さないようにしています。		日々の会話、行動を細かく観察し、支援に活かしています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの係わりのなかで、今何をしたいかを希望しているかを、声かけしながら見極め、本人の意思の把握に努めています。		毎日のバイタルチェックや排泄、食事摂取量、一日の生活行動を確認記録し、現状把握に努めています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティングを開き入居者1人ひとりのケアのあり方について検討し、必要あるときは家族及び関係者と相談し介護計画を作成しています。		前回のミーティングで計画したことを振り返り、支援の方向を調整しながら行っています。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画期間中であっても出来るだけ細かく計画を分析し、状況に応じて変更、調整、連絡を行っています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子観察に力を入れ、個別記録や気付きノート、送りノートに記入し、職員に周知し話し合い、ケアに生かして介護計画に取り入れています。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の希望に出来るだけ副うように、家族と相談しながら柔軟な支援に心がけています。		
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の希望や意向を、必要に応じて相談しながら支援しています。		
----	---	--------------------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じてケアマネージャーやサービス機関、医療機関と相談しながら支援しています。		本人にとってどうすることが一番良いのかを基本に考えて支援をしています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	困難なケースについては地域包括センターと家族を含め話し合っていることとしていますが、現在該当者がありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得されたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居されるまでに、かかりつけ医があれば、関係を大切に支援しています。また、往診をしていただいています。		家族と話し合い、事業所の協力医療機関を利用する場合は かかり医の紹介状をお願いしています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談し、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医とよい関係を保ちながら、相談し、指示を得ながら対応しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師に毎日バイタルチェック、健康チェックをしてもらい異常の早期発見に努め、相談し、協力医療機関とも相談しながら支援しています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には細かい情報を提供し、早期退院が出来るように医療機関と情報交換しながら、関係者との連携を大切にしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化や終末期について家族の理解を頂き、家族の意向を聞きながら、連携を取りながら、職員全員でケアの共有をしています。		家族との連携、医療機関との連携を繰り返し行っています
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームでできる事、できない事を家族の理解を得ながら、主治医の指導を受けながら、職員間で共有し支援に取り組んでいます。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	本人のホームでの生活状態、医療機関での受診記録などをもとに十分情報を提供し、住み替えによるダメージ防止に努めています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入居者に対する言葉使い、介助については職員間で注意しあいながら、日々気をつけるよう努めています。プライバシーに関わる書類は鍵のかかる書庫に保管しています。		全体ミーティングで他部署より気付くことは、意見を言ってもらうようにしています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人との会話や行動から、思いを話せるように働きかけ、把握した上で、本人の思いを尊重し、本人が納得し、安心して暮らせるよう支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの安全で安心のある生活ができるよう目配り、気配りをしながら支援しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	馴染みの理髪店を利用させていただいており、希望によりホームでの出張散髪も行っています。身だしなみやおしゃれも自由に出来るよう支援しています。		顔の髭剃りや、時々口紅や化粧の支援をして、喜ばれています。服装や身だしなみについてのケアも大切だと考えます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備、配膳の準備、片付け、食器洗いなど職員と一緒にしています。		入居者と育てた野菜なども食卓に並ぶこともあり喜ばれています。塩水制限等ある場合は酢や調味料等工夫をこらし、美味しく食べていただくよう努めています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	1人1人の希望を聞いて好みのものが提供できるように、楽しんでいただくよう支援しています。		食事制限、嚥下しやすいもの等配慮しながら提供しています。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1人ひとりの排泄パターンを把握し早めに声かけして失禁のないようケアし習慣となるよう支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望された時、その時の状況を確認し入浴して頂いています。前日の入浴パターンを観て支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自室で休まれる方、職員が見えるところで休みたい方など安心して過して頂くよう支援しています。定期巡室し、希望に合わせて室温、照明を調節しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	笑っていられる時間を少しでも多く提供できるよう支援しています。1人ひとりに合った、楽しいと思える時間の支援をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し使えるように支援している。	金銭の管理は職員が行っており、必要なものは職員が購入しています。体調が良ければ職員が同行し確認の上、購入しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に副って、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりその日の様子を見て声かけをし、屋外に出ていただけるよう心がけています。		体調の低下に伴い、戸外への外出が難しくなりつつあるなかで、施設の周辺を散歩できるよう努めています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節にあった場所を選び実施しています。		家族の方との時間を少しでも増えるように思い対応しています。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をし、手紙のやり取りができるように支援をしている。	我が家への不安、家族への寂しさなど訴え、思いをくみ取り、電話して頂いています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問でき、入居者と過せるよう対応しています。		訪問時に日々の暮らしの様子がわかるよう写真を貼り、アルバムを作成しています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	居室やホームから自由に出入りできるよう対応しています。ホーム外に出るときは転倒などないよう見守り付き添っています。	○	勤務体制で職員が少ない時間帯に戸外に出ることを希望された時の対応を考える。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関には鍵をかけていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を通して入居者の所在や体調変化の確認をしており、夜間も定期的に巡視し安全を確認しています。		廊下周りに監視カメラを設置し所在の把握をしています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じて、危険防止に努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤飲、誤嚥されないように手の届かない場所に保管しています。出歩く人には常に付き添って支援しています。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	消防署員より応急手当、初期対応の講習は行いましたが、定期的に行う必要があります。	○	急変のときの救命講習を定期的に行う必要があります。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の住民の協力で消防訓練を行いました。訓練の回数が少ないと思います。災害発生時に地域の方の協力が得られる緊急連絡表もあります。	○	今後も継続して行いたい。ホーム内だけの訓練も増やしていきたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	日常生活など細かく家族の方に説明して連絡を取り合い、その人らしい生活を送っているよう対応をしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々健診や行動を見極め、変化があったときは速やかに「何でもノート」「ケアノート」で周知徹底しています。著しい変化は看護師に相談し観察、受診を速やかに対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	目的や作用をしっかり把握しておき、職員への周知を徹底しています。使用方法や副作用など十分理解して対応しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取の確保や介護体操、朝の牛乳、果物、ヨーグルトなどで自然排便に心がけています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後声かけし、職員と一緒にしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスの低下が見られる方は栄養補助食品を摂取していただき、1日の食事、水分量を記録し、少ない方には摂取していただくようにしています。食事内容も体調に応じてメニューの変更、刻み食、ミキサー食の支援をしています。	○	1日1300CCの水分量の確保が難しい方、多すぎる方とバラツキがないように心がける必要があります。医師の指示で500CCの方も居られます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの実施、手袋の着用、マスクの使用、消毒剤を使用し、感染症の予防に努めています。勉強会を開き基礎的な知識を学習しています。		インフルエンザ予防接種は全員受診しています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具等は漂白、熱湯、熱風消毒して管理しています。 食材は必要食材をその都度購入し、冷凍冷蔵庫に保管しています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには植木や草花もあり、門も開放しており安心して出入りが出来るようにしています。ぶどう園も近隣の方に手伝っていただきます。 裏庭にはデッキがあり庭園や池を眺めるようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面やホールに行事や日常の生活ぶりの写真を張り、季節ごとに入居者と共に作成した飾りをしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになられたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル椅子、畳の間、ソファなど思い思いの居場所を提供しています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者と家族が相談されて、使い慣れたものを配置されています。 家族さんの写真を貼り、自分で作られた作品を飾り、思い思いに工夫されています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレは24時間喚起を設置し、各居室、ホールには空調機を設置、床暖房を設置、床には自然換気されるよう工夫し、におい、温度調整をおこなっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は全てバリアフリーで廊下、トイレには手すりを設け、自立した生活が送れるよう工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの力を出せるよう、強制ではなく、ぬりえ、折り紙、パズル、ゲームなどを自由にできます。食材の皮むき、食器洗いなどやりたいことをやれるよう工夫しています。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しめるよう、活動できるように活かしている	畑作業の好きな人には野菜作りをしていただき、花作り、デッキから鯉に餌をやるなど少しでも楽しめるよう工夫しています。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ ○利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目